

「初秋の八島湿原(6)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

湿原歩きの良さの一つは、ほとんど高低差がないことだろう。湿原はもともと大きな湖だった。そこに泥炭層が少しずつ(年間 1mm 程度)堆積して、高層化(草原化)した地形が、現在の八島ヶ原湿原だ。湖の汀線(湖岸線)に沿って歩くようなものなので、ほとんど高低差はないわけだ。



体力をあまり気にせず、雄大な景観や、木道沿いの植物や昆虫の姿を楽しみながら歩けるのが、何よりも嬉しい。この日はよく晴れていて、家族連れの小さな子どもたちや、かなりご年配の方も歩いていた。



これは「ハクサンフウロ」この花は本来薄紫色なのだが、固体によって濃い赤紫色のものもあるようだ。



「ノコギリソウ」とはよく名づけたものだ。名の通り、葉の鋸歯が深く、ノコギリのように見える。



「マツムシソウ」薄紫色の清楚な花だ。初秋の高原を代表する山野草の一つと言える。この花を目当てに、山に来る人も多い。



ハギの花もよく見かけた。ハギは種類が多く、見分けが難しい。これは「フタバハギ」マメ科独特の蝶型花に、とがった2枚の葉をつけるのが特徴。